

センター長
黒岩 敏彦

新しく『広域医療連携センター』
(医療連携室・患者支援室・
がん相談支援室)として稼働
いたします。

本年9月に既存の『病院医療相談部』は新しく『広域医療連携センター』として稼働いたします。そのセンター長として6月に病院長の私が就任いたしました。

『広域医療連携センター』はその名前のとおり、医療連携、地域連携などを広いエリアで担うことを目指しています。とりわけ当院は『特定機能病院』として、高い医療レベルを必要とした患者様をより多く、広く受け入れていくべき使命をもっております。限られた病床数で患者様の受け入れを円滑に進めていくためには、おのおの診療科が速やかに受け付け、ベッドを効率的に運用し、地域の医療機関とのスムーズな連携を構築することが不可欠となっております。その目的のために当センターは、『医療連携室』『患者支援室』『がん相談支援室』の3つの部署で構成されます。各部署が病院のなかで連携の柱として機能することを目指して参ります。

実は、高槻市は全国的にも比類ない地域医療ネットワークが発達した医療圏であります。

医療連携が活発な地域だからこそ、ぜひ『かかりつけ医』をお持ちください。ご不明な点がおありの時、ご相談を希望される時には、どうぞ『広域医療連携センター医療連携室』までお越しください。地域性、専門性を考慮してご提案させていただきます。

地域を大きな病院としてご理解いただき、初期診療は『かかりつけ医』で、高度な検査や医療・手術などは本院に医療連携を通してお越し下さる事が望ましい受診スタイルとなります。医療機関からのご紹介で診察を受ける場合には予約がとれますし、紹介状のない初診の方にかかる選定療養費(5,250円)も不要です。

このセンターが名実ともに地域の皆様のお役に立てますよう尽力していく所存です。9月からの新しい広域医療連携センターの働きにどうぞご期待ください。今後ともよろしく願っています。

2012年9月より、
『広域医療連携センター』に変わります

広域医療連携センター

医療連携室

医療連携室室長
木村 文治

患者支援室

患者支援室室長
亀谷 英輝

がん相談支援室

がん相談支援室室長
福田 彰

シリーズ 治療の最前線

頸椎のインストルメンテーション

整形外科 根尾 昌志

自己紹介

平成24年7月1日付けで京都大学整形外科准教授から大阪医科大学整形外科教授に就任いたしました。昭和58年に京都大学を卒業後整形外科を専攻なかでも脊椎外科(セバネの手術)を専門としております。脊椎脊髄疾患はほぼ全般を取り扱いますが、とくに、これまで一般病院では行われることの少ない頸椎(首のせばね)のインストルメンテーション手術を数多く行っておりました。

頸椎のインストルメンテーション

脊椎のインストルメンテーション手術とは、いくつもの椎骨が繋がってできている脊椎(せばね)に金具を設置し、それらを金属のロッドでつなぐことで、脊椎を良い形で固定してしまいうことです。それにより、脊椎の破壊や不安定性によって起こる痛みや麻痺を改善することが出来ます。固定することにより脊椎は動かなくなつて

しまいますが、この技術により、寝たきりになったり早晩亡くなつたりしていたはずの多くの患者様が普通の生活を楽しめているのも事実です(図1)。現在、腰椎のインストルメンテーション手術は一般的になりましたが、頸椎は小さいうえに、脊髄・椎骨動脈など重要器官が椎管内を走行し、金属の設置を1つ間違ふと命にかかわつたり、永久的な四肢麻痺になつたりする危険性があります。スクラユーなど金具の設置にはミリ単位の精度が要求されるため、どの病院でも頸椎インストルメンテーション手術をできるわけではありません。私はこれまで、最新の技術であるナビゲーションシステム(コンピュータを利用して、手にもつている手術器具の骨内での位置を3次元的に知ることが出来る)(図2)や、3次元実体模型(CT画像から作つた患者様の骨や内部構造の実寸大模型)(図3)を利用して、これらの手術をできるだけ安全に行う努力をして参りました。当院でもそのような手術がより安全確実に施行できるよう、今後早急に整備するつもりです。

このような最新の技術を用いて、1人でも多くの患者様が自立し、生活を楽しめるようになっていただければ、と願っております。

図1 79歳女性。76歳時、がんの転移によって頸椎が破壊され、強い頸部痛のため体を起こすことができず寝たきりとなった。この時点でがんに対する根本的治療はないとのことで、がんの担当科より整形外科を紹介され頸椎インストルメンテーション手術を施行した。その後もがんは増大し頸椎がほとんどなくなつてしまった(矢印)が、金具が頭を支えているため、痛みなく普通に暮らせている。

図2 変形の強い頸椎で、術中直視下では骨のなかでの器具の位置が全く分らなかった。ナビゲーションモニターが、いろいろな断面上で器具の先がどこにあるのか、どこに向かっているのかを示してくれている。

図3 他院で頸椎の骨を削る手術を受けた患者様の3次元実体模型。手に取っているいろいろな方向から眺めることができるため、骨構造が3次元的にどうなっているのか分かりやすく、再手術の計画を立てたり、術中に参考にしたりすることができ、安全な手術の役に立つ。

大阪医科大学附属病院ホームページ

http://www.osaka-med.ac.jp



小児科外来が、生まれ変わりました。



小児科外来看護師主任 水島 道代

5月14日、小児科外来がリニューアルオープンしました。受診していただくお子さまやご家族により良い診療環境を提供できるよう、広く明るく安全に“をテーマに改築改装いたしました。各室でできるだけフリースペースになるように配置し、壁紙や床の素材や色を厳選し、長椅子はビタミソカラーにしました。お待ちいただく廊下の壁面には、子どもたちの生きる力、癒しの象徴となる「木」を描きました。四季折々、年間の行事にあわせて、その「木」にマグネットで花や果実、クリスマスには飾りを貼りつけて楽しんでいきたいと考えています。待合フロアの時計はオルゴール仕掛けで、時間を知らせるたにお楽しみいただけることと思います。受付前の一角にはプレイマットを設置し、玩具や絵本棚を置きました。お待ちいただく時間が、ご家族のふれあいのひと時となりますことを願っています。各診療室は、緊張感をほぐし快適さを提供できるように配慮しました。なかでも第3診療室は、



開放的で夢が広がる「空」をイメージした壁紙にしました。マグネットの雲や虹、ヘリコプターをお子様の発想で自由に貼りつけ楽しめるようになっています。

リニューアルに伴い、私たちスタッフも新たな気持ちで安心して診療を受けていただけるように、より一層のサポートを行っていきたいと思っています。今後とも満足いただけるように心がけて参りますので、お気づきのことがありましたら遠慮なく声をおかけください。



熱中症について

救急医療部 新田 雅彦

熱中症とは？

熱中症とは、暑苦しくジメジメした環境のなかで、体温調節を行うために体力が消耗し、体温コントロールがうまくできなくなった状態をいいます。

熱中症はなぜなるの？

あなたの体温は、夏でも冬でも、仕事や寝ている時も、ある一定範囲の体温にコントロールされています。ヒトは体で産生された熱を体の外へ逃がすために、手足などの末梢の血管を広げ皮膚の血の巡りを良くすることにより熱を放散することや、水が蒸発する際に熱が奪われるため、汗をかいて体温を下げようします。しかし、これら体温調節のためにシステムが過度に働いたり、逆にうまく働かないと、からだに大きな負担がかかります。



熱中症はどんな症状なの？

発汗で水分や塩分が失われ不足してしまうこと（脱水症）や、脳をはじめとする五臓六腑への血の巡りが悪くなり、「筋肉のこむらえり」や「めまい・失神（ごく短時間の気絶）」「疲労困憊状態」、そして「意識もうろう状態」や「けいれん」が生じ、ついには体温調節機能が破綻し「高体温」となります。

熱中症は予防できる障害です！

熱中症は予防が大切です！ とくに、高齢の方は、暑さやのどの渇きを自覚することが苦手です。また、体温調節のための体の応答が鈍くなり、体温調節もスムーズに行われません。さらに、からだの水分量も若年者と比べ少なくなっており、脱水になりやすい傾向があります。

また、乳幼児の子どもさんは、汗をかくための汗腺をはじめとした体温調節機能が未熟なため、リスクは高くなります。とくに、気温が皮膚温より高い環境下では、体の芯の体温は急激に上昇します。そのため、炎天下の車中などに長時間でも取り残されると、熱中症に陥ります。

健康な方でも、暑く湿度の高い環境では、運動や労働で熱中症に陥りますので、安心は禁物です。

熱中症を予防しよう！

暑さに対する環境整備はできていますか？ まずは、生活環境の整備と服装の工夫をしましょう。最近では1人暮らしのご老人も多いので、近所の町内会等で助け合いも大切です。

水分補給法は、のどが渇かなくても適宜とりましょう。とくに、汗をかいた時は塩分補給も必要で、経口補水液やスポーツ飲料が最適です。経口補水液は薬局等で販売されていますが、自宅で作ることもできます。経口補水液の作り方は、「湯冷まし1ℓに対して、砂糖40g（大さじ4杯と半分）と食塩3g（小さじ半分）を加える」で、レモンなど果汁を絞ると飲みやすくなります。

ほんの少しの心がけて、熱中症は予防できます。昔は、うちわ・風鈴、蚊帳で昼寝、そして、冷やした西瓜に塩をかけて食べていましたね。これは、熱中症を予防する智恵です。世知辛い世の中ですが、夏のひと休みも大切です。健康あつての日ごろの生活ですので、皆様熱中症の予防に心がけてください。

市民公開講座

第1回 平成24年 4月21日

「年をとった」だけで「すましていませんか」 ―見逃されがちな老年期うつ病―

精神神経科 岡本 洋平



うつ病の有病率―うつ病は珍しい疾患ではない―

厚生労働省の調査による日本人のうつ病の有病率は6.5%であり、日本人の15人に1人が、一生に一度はうつ病にかかる可能性があるという報告があります。

うつ病をきたしやすい病前性格

几帳面、完璧主義、真正直な人、がんばり屋で自分のなかに閉じこもる人がうつ病にかかりやすいといわれています。つまり、こういった性格の人はストレスの処理を上手にできない側面があるともいえます。

うつ病の原因

脳内にはセロトニン、ノルアドレナリンという意欲や活力などを伝達する働きをしている神経伝達物質があります。そういった物質はストレスなどによりバランスの乱れを生じ、乱れた状態が持続すると働きが悪くなり、憂うつ感などを引き起こしてうつ病を生じるといわれています。

老年期うつ病の特徴

また、世界保健機構（WHO）では単に寿命の延長でなく、健康に生活できる期間が重要と提唱しています。その健康な生活を障害する疾患として、うつ病は2020年には虚血性心疾患に次いで第2位になると予測されています。

老年期うつ病の治療

脳内にはセロトニン、ノルアドレナリンという意欲や活力などを伝達する働きをしている神経伝達物質があります。そういった物質はストレスなどによりバランスの乱れを生じ、乱れた状態が持続すると働きが悪くなり、憂うつ感などを引き起こしてうつ病を生じるといわれています。

最後に

うつ病は「こころが弱い」からかかる病気ではないということとを理解していただき、「もしかして？」と思われる際には精神科、心療内科などの専門医を受診してください。

第2回 平成24年 5月19日

関節の痛む病気と新しい治療

膠原病内科 榎野 茂樹



- はじめに
- 関節リウマチと膠原病の関係
- 関節リウマチ治療の変化

1. はじめに

関節リウマチは、手や指の小さな関節から始まり、全身の関節に進展する関節滑膜炎の慢性の炎症です。進行すると骨が破壊され関節の変形に至る病気で、診断基準により診断されます。

2. 関節リウマチと膠原病の関係

関節リウマチは全身の病気で、関節以外の症状も起きます。また、他の膠原病を合併することもあります。そのなかには、生命に危険性のある肺病変や全身性エリテマトーデスの合併なども含まれます。それらに対応できる専門性が必要です。

3. 関節リウマチ治療の変化

平成12年以前は有効な薬がなく、疼痛の軽減が治療目標で、中等症以上の患者は関節変形をきたし身体機能を損ねていました。その後、有用な臨床指標が發明され、これらをモニターに使用し十分な治療を行うことが、新薬の登場により関節リウマチの治療は劇的に変化しました。消炎剤やステロイド薬は協役に、抗リウマチ剤のなかのMTXが基本の薬剤となりました。さらに強力な抗リウマチ効果をもつ生物学的製剤といわれる注射剤も登場し、一部の重症者以外には病勢の鎮静が得られ、関節破壊の進行の阻止と身体機能の保持が可能となったのが現在の関節リウマチ医療の現状で、さらに日々進化し変化しています。

情報コーナー

今夏の節電について

今般、文部科学省から「今夏の電力需給対策について（平成24年5月18日付）」とする通知があり、関西電力管内については、7月2日（月）から9月7日（金）の平日（8月13日～15日を除く。）9～20時において、一昨年の使用最大電力を基準として15%以上の節電に取り組むよう要請がありました。

本学では一昨年の使用最大電力（6,040kW）の15%削減（病院側使用電力を除く大学削減分270kW以上）を節電目標としています。施設課では、前年度同様に冷房機器の能力を抑えたり、電気冷房機械をガス冷房機械にシフト運転させたり、総合研究棟エレベーターを1台終日停止等をするにより節電目標に近づけるよう努力しています。

電気料金には、化石燃料（原油・石炭・天然ガス）の取引価格によって変動される燃料費調整額、使用済燃料再処理等既発電費、太陽光発電促進付加金が含まれて、新たに平成24年7月から再生可能エネルギー発電促進付加金が追加され、電気料金の値上がりしが危惧されています。

今夏の節電は、皆様方のご協力をなくして達成できない数値目標であり、節電の効果は電気料金に十分反映されています。また、年間通しての省エネルギーを心掛けることにより、二酸化炭素の削減や地球温暖化防止に貢献できることとなりますので、ご理解とより一層のご協力をお願い申し上げます。

『ウィリアム・メレル・ヴォーリズ展』開催いたしました。

平成24年6月1日（金）から10日（日）までの10日間（来場者数：2,614人）本学歴史資料館5周年を記念し『ウィリアム・メレル・ヴォーリズ展 in 高槻（一創立85周年の節目に）』を開催することで、高槻市民をはじめ広く一般の皆様方に、同氏の生涯と業績をご紹介しました。なお、同氏（1880～1964年）は、大正・昭和を通じて日本で活躍した米国人建築家で、近年その建築物が改めて評価されています。

